

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人社団 洛和会	事業所名	看護小規模多機能サービス壬生
所在地	(〒604-8852) 京都市中京区壬生東大竹町4-4番地1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

多機関との連携を密にすることにより、医療ニーズの高い利用者のご利用に対応ができています。介護職の自宅訪問の他、訪問看護師からの情報提供もあり在宅生活の状況をくみとりやすい。通所、宿泊、訪問介護、訪問看護のスケジュール変更も利用者の状況に合わせ敏速に対応することができる。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2020 年 2 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(12) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2020 年 4 月 30 日	出席人数 (合計)	(6) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (____ 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (____ 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (____ 人) <input type="checkbox"/> その他 (____ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	各職員の個別研修計画にて研修に参加する。	個別目標に基き研修計画の作成。	職員個別の目標を明確にでき研修参加できた。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	「気付きカード」の活用と月2回以上開催する職員ミーティング、日々の申し送り変化を把握し、随時計画に反映する。	気付きカード作成し職員からの情報収集。 利用者情報や業務工夫。	手軽にいつでも提出ができており、情報収集や、業務改善が敏速に行うことができた。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	利用開始時・入院時の際などの状態変化においては看護職と介護支援専門員が情報共有し、計画を作成する。	入院、退院時には病院関係者とも連携しスムーズな在宅復帰を目指し、支援再開する。	主治医との連携、訪問看護との連携がとれ、スムーズな対応、計画作成や変更ができた。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	運営推進会議に職員も参加する。	小規模職員、グループホーム職員の参加。	運営推進会議にて、小規模、グループホームの業務説明を都度行えた。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	看取り受け入れ態勢の維持。	退院前カンファレンス参加し、本人家族の意向を傾聴。	毎年、看取り介護を行えている。	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	内部研修・外部研修の参加	職員個別の研修計画に基き内部研修・外部研修に参加しスキルアップを促す。 勤務調整を行い、できる限り研修参加職員を増やす。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	「ミーティング用紙」を活用し、情報収集、業務改善につなげ利用者処遇の改善を行う。 ミーティング内で検証を行う。	「気付きカード」ではなく、「ミーティング用紙」に変更。 情報収集、業務改善の検証を行う。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	多職種との連携によりスムーズな入退院、また在宅生活の復帰を支援する。	新規利用受け入れ時にも一般職員もカンファレンスに参加し、本人、家族の状況把握を行う。 多職種との連携強化の継続。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	理解を行う地域の方が参加できる行事を開催し、施設の。また地域の行事に利用者、職員が参加する。	地域住民参加ができる、施設祭りの継続。 地域の行事に利用者のみではなく、職員が参加できる地域防災訓練、地蔵盆などの参加を行う。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	在宅での看取り希望者に受け入れ態勢の継続。	本人・家族の要望を傾聴する。 利用者に対する職員の思いを聞き出し、援助内容に活用する。 職員の看取りに対する不安を取り除き、看取り教育の向上を行う。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します